

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400227
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	グループホーム 夏みかん
所在地	愛媛県八幡浜市八代45番地
自己評価作成日	平成26年7月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>明るく健康で楽しく過ごしていただけるよう、健康管理とキッズくじらと合同で行うレクリエーションに力を入れている。</p>
--

<p>●10時・3時のお茶の時間や夕食後、職員は、利用者と一緒に過ごしながらかお話を聞く時間を設けており、個々の思いを汲み取ることに努めておられる。利用者個々に担当職員を配置しており、毎日のかかわりの中で、知り得た情報は記録して共有されている。</p> <p>●今夏の「夏みかん祭り」は、案内状を手渡ししたり、隣接託児所や小学校にポスターを貼らせてもらって、昨年は地域の参加者がなかったが、今年は地域から2家族の参加があった。</p> <p>●協力医療機関の医師は、往診のため毎日事業所に来られており、職員は、気になることがあればその都度相談されている。夜間は、連携病院の看護師に連絡がつくようになっており、必要に応じて医師に連絡してくれるようになってきている。薬は、薬フォルダーに個別に仕分けされており、調査訪問時、食事が終わった利用者から職員が利用者の手のひらに薬を乗せて服薬支援しており、さらにその後、他職員が再度服薬できたか確認をされていた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

廣瀬 浩美

評価完了日

26 年 7 月 12 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 「認知症であっても、一人ひとりが地域にとけ込んで、当たり前暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」ことを理念とし、その人らしく生活できるよう利用者個々に支援している。</p> <p>(外部評価) 以前、理念の見直しを検討されたこともあったが、職員で話し合った結果、「このままの理念を継続する」ということになった経緯がある。理念は玄関、居間に掲示されている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 天気の良い日は、ホーム周辺を散歩したり、食材の買い物や地域行事には、できるだけ利用者とお掛けして、地域の方々と触れ合う機会を作るようにしている。</p> <p>(外部評価) 近所には高齢者も多く、散歩時には声をかけたり、挨拶することに心がけておられ、「暑いけん気をつけなさいよ」と挨拶を返してくれることもある。今夏の「夏みかん祭り」は、案内状を手渡ししたり、隣接託児所や小学校にポスターを貼らせてもらって、昨年は地域の参加者がなかったが、今年は地域から2家族の参加があった。前回の外部評価実施後には、町内会への加入等、事業所からお願いに行かれたが、「事業所として町内会に加入することは難しい」ようだ。</p>	<p>地域行事は新聞で知ることができるようでもあり、今後は理念の実践に向けて、地域の方達に会える場所探し等して、利用者とおかけみてはどうだろうか。又、地域活動等に積極的に参加しながらいろいろな方と知り合いになれるよう、取り組んでいかれてはどうだろうか。さらに、地域包括支援センターの協力や運営推進会議等も活用しながら、取り組みを工夫されてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議や夕涼み会にお誘いするも、なかなか参加して頂けず積極的に貢献出来ていない状況であるが、今後も地道に働きかけていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の現状、活動報告などを通して出席者の方々からの意見を職員に伝え、サービス向上に活用するようにしている。市職員の方には介護記録やケアプランの書き方等について、ご指導や助言を頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議時、「車いすの操作方法」「誤嚥をなくすためのとりみ剤の勉強会」「看取りについての話し合い」を行い、ご家族は、「勉強になった」と喜ばれたようだ。民生委員の方が時には参加されるが、地域の事情があり、地域の方の参加は難しいようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入退居時や介護認定更新の際の情報共有、市の地域密着型サービス連絡会議に参加し、運営について相談したり、助言をもらいながら連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターからは、記録の仕方についてアドバイスをいただいた。年3回程度行われている市主催の「地域密着型サービス連絡会議」に参加し、他事業所と情報交換を行っておられる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員は、研修や法人の勉強会で身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関にはドアチャイムを設置し出入りを感知出来るようにし、夜間以外は施錠せず見守りを行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関ドアにチャイムを設置し、人の出入りがわかるようになっており、「風に当たりたい」と外に出る方もあり、職員は見守って自由に過ごせるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や法人の勉強会で虐待の定義や規定に関して学んでいる。入浴時や更衣時には全身状態を確認するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について研修会で学んだ職員はいるが、十分とは言えないので勉強会を行い、話し合う必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には、契約書に沿って、相手の立場に立って丁寧に分かりやすい言葉で説明し、理解や納得を得るように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族にアンケートを送ったり、苦情相談箱の設置、ケアプラン更新時、さわやか相談員の訪問等、利用者やご家族が意見や要望を気軽に言って頂けるような関係作りを心掛けており、スタッフ会で取り上げ運営に反映させている。 (外部評価) 事業所独自でご家族にアンケートを取っており、意見や要望を書いてくださる方もあるが、ご家族の高齢化や、利用者との関係性等により、意見をいただくことは少なめのようだ。ご家族への送付書類には、新人職員のプロフィール等を同封して知らせておられる。運営推進会議時、看取りについて話し合った際、ご家族それぞれに意見や希望が異なったことを受け、遠方に住むご家族には、帰省時に話し合いの場を持つようにされた。会議に参加して下さるご家族の顔ぶれが同じであるため、「家族会を作って家族で話し合ってもらい、協力いただきたい」と考え、取り組みをすすめてみられたが、開催することが難しかったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 半年に一度、管理者面接や月に一度のスタッフ会で意見交換を行っている。	
			(外部評価) 日々の中や月1回、日中に行うスタッフ会時、職員で意見を出し話し合いながら、取り組みをすすめておられる。職員からの意見がきっかけで、各居室の掃出し窓にスロープを設置することにつながった。外部研修の案内は、職員に周知し、希望者優先で受講できるよう取り組まれている。現在、事業所職員も加わり。法人内でケアの手順書を作成中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内で人事考課表を取り入れ、努力や実績、及び勤務状況などを把握して職員の評価を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 講習や研修の希望者を優先して、職員個々に必要だと思う講習や研修を順次受けるように勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) GH連絡協議会、地域密着型サービス協会に参加し、他事業所との意見交換や情報交換を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や思い、人生観を傾聴し、不安を軽減し安心して過ごせるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の希望や思いを聞いた上で、本人にどのような対応ができるかを説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人の希望をよく聞き、必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食器洗い、掃除、洗濯物たたみ等、できる範囲で共同生活を営んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や電話があった時には近況を伝えている。また、毎月の行事を送付状でお知らせしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人が面会に来られた時は、居室に招き、お茶を飲みながらゆっくり過ごせるよう配慮している。 (外部評価) 調査訪問日の昼食時、入居間もない利用者の親族の方が来られて、職員は居室にお茶やテーブルを運んで、ゆっくり過ごせるよう気配りされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1日2回のお茶の時間には、皆揃ってゆっくり話をして過ごしている。入居者様は一人一人心身の状態が違っているので、理解したり、仲良く過ごせるよう職員も間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方が病院や他施設に行った時など、顔を見て話をするよう心掛けている。移動先への申し送り問い合わせには詳しく答えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の身体状況、性格、考え方を考慮し本人の希望に沿える支援を心掛けている。介助を必要とする方に心理的負担をかけないように心掛けている。 (外部評価) 10時・3時のお茶の時間や夕食後、職員は、利用者どゆっくり過ごしながお話を聞く時間を設けており、個々の思いを汲み取ることに努めておられる。利用者個々に担当職員を配置しており、毎日のかかわりの中で、知り得た情報は記録して共有されている。「体を動かすことが元気の秘訣」と言う利用者には、新聞折りや洗濯物を干したりたたんだり、床のモップがけ等を職員と一緒に出来るよう支援しており、調査訪問時には、皆の枕カバーをていねいにたたんでくださった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に面談をし本人、家族から基本情報や、これまでの暮らしを聞き、どのような生活を送りたいか？希望など把握するよう努めている。ケアマネや主治医から情報をもらう。自宅訪問の機会をつくる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の能力、希望、心身状態を日々の介護記録と申し送りにより職員全員が把握し、できること、できないことを、見極める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日々の観察、記録、話し合いの中で課題を把握しスタッフ会でケアの方向性、実施事項を決める。随時、家族に状態報告、相談を了承して頂く。医療機関には身体状態について指導、アドバイスを頂いている。本人、家族の希望を聞き介護計画書を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の見直し時期には、ご家族にケアや暮らしについて要望や意見をうかがうが、「今まで通りでいい」「元気でいてくれればいい」と言われることが多いようだ。入居当初は、利用者やご家族の希望を聞きながら暫定計画書を作成し、1~2ヶ月後に状態、状況を把握した上で再度作成している。介護計画には、「利用者の楽しみ」を盛り込むよう取り組まれており、毎月モニタリングを行い3ヶ月毎に評価して、6ヶ月毎の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録にはケアプランを記載しケアプランに沿った支援ができたか？記録するようになっている。職員間の申し送りで情報を共有するよう努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) グループホームの機能の中で安全を確保し穏やかな生活を送れるよう支援している。利用者のニーズに対応し健康管理、レクリエーション、外出、買い物、外部医療マッサージなど行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域やグループの催物に参加している。学生の体験学習の受け入れ、消防署の協力による避難訓練、ボランティアの受け入れを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居時、ホームの提携病院の医師が、かかりつけ医となり、随時往診していただいている。他病院への受診も、本人、家族の希望に応じて行われており、必要があれば、職員による送迎介助もおこなっている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関の医師は、往診のため毎日事業所に来られており、職員は、気になることがあればその都度相談されている。夜間は、連携病院の看護師に連絡がつくようになっており、必要に応じて医師に連絡してくれるようになっている。他病院への受診はご家族が同行するが、都合によっては介護タクシーを利用して、職員が付き添い支援されている。薬は、薬フォルダーに個別に仕分けされており、調査訪問時、食事が終わった利用者から職員が利用者の手のひらに薬を乗せて服薬支援しており、さらにその後、他職員が再度服薬できたか確認をされていた。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 連携病院の看護師とは、24時間体制で連絡ができるようになっている。状態変化があれば、いつでも連絡して、相談したり、指示をもらっている。医療連携看護師は、週1回来所する。相談したり、アドバイスを貰うことができる。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者様の入院の際には、安心して治療でき、早期に退院ができるよう、入院先の病院と、情報交換等を行うよう努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時より、重度化、終末期、看取りのあり方について、説明し、本人、家族の希望も、聞きとりをしている。かかりつけ医からも、本人の状態や、急変時の対応について、説明して頂いている。看取りに関するアンケートを実施し、家族の思いなど、確認している。状態の変化に応じて、時々、思いを受け止めて、話し合っていくことが必要だと考えている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、これまで看取り支援の経験はないが、「今後のことを考え、研修を受け自然に穏やかな最期を支援したい」と話しておられた。利用者の意思是、普段の言葉の中から汲み取るように努めておられる。又、ご家族の意向もそれぞれであり、利用者の状態変化時の医師からの説明をご家族と一緒に聴き、サポートしていきたいと話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応マニュアルを、確認し、訓練に参加し、身につけることができるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の避難場所を確認している。避難場所や方法について、職員全員で話し合いをおこなっている。年2回避難訓練をおこなっている。食料等の備蓄も備えている。災害時には、近所の方の協力が必要だが、つながりは弱い。	災害時、利用者が安全に避難できるよう、地域との協力体制を作っていかれてほしい。まずは、地域との関係づくり等に積極的に取り組み、地域とともに体制作りを考えていかれてほしい。
			(外部評価) 津波警報が出た時は、車で5分くらいのところにある法人有料老人ホームに避難することになっている。年2回、避難訓練を実施しており、地域の方に声をかけたこともあったが、参加にはつながらなかったようだ。隣町の伊方原発の原子力災害発生時の備え等も今後の取り組みとなっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 丁寧な声掛けを心掛け、入居者の方に不快な思いをさせないよう心掛けている。安全のため、プライバシーの確保が、充分に行えていないところもある。	
			(外部評価) 契約時に個人情報の開示について了解を得ており、運営推進会議では利用者の実名や病名等も交えて報告をされている。利用者の中には高齢なこともあり、「眠い日」「しっかり起きている日」のある方がおられ、調査訪問日、ご本人は昼前に起きて来られて、飲み物を飲んで過ごされており、職員は利用者の生活のリズムに合わせて対応されていた。トイレ誘導時、職員は小さな声で言葉かけされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人がしたいと思っている事は、できるだけ支援できるようにと、職員同士で協力している。自分から思いを伝えることが難しい方には、表情などを良く見て、思いを汲み取ることができるように、努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活習慣を把握し外出、食事面など希望があれば業務の流れを変更し対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴や外出時には本人に衣服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 法人内のグループホームで統一した献立表を使用しているが好みや食べたい物の希望があれば、その都度、変更している。利用者に応じて手伝いをして頂いている。	
			(外部評価) 法人内で作成する献立表に沿って、職員が交替で調理されている。利用者の好き嫌いによっては、献立を変更されている。利用者3名が毎日、今日の献立を書いてくれており、居間に掛けておられる。一時期、業者からの配食を利用していたが、生野菜が少なく、魚が冷凍だったりもして食べ残しが目立ち、早々に手作りに戻されたようだ。誕生日には利用者の好きなものを作ってお祝いされている。利用者の中には、食事前のテーブル拭き、お茶やお箸の準備、食後の食器洗い等をする方もみられた。利用者個々に合わせてお膳に滑り止めマットを敷いたり、スプーン、フォーク、箸を使用して、自分で食べられるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量と水分量の記録をしている。摂取量が少ない時は、好みの食べ物や飲み物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの補助や声掛けを行い夜間に義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツを利用している方も日中はポータブルトイレを使用し便意、尿意を感じてスムーズに排泄して頂けるよう介助を行っている。排泄パターンを把握し声掛けを行い失禁を予防しオムツ、パットの使用を減らしている。	
			(外部評価) トイレの広さに制限があり、ひとりで立つことが難しく全介助が必要な方には、居室にポータブルトイレを置き支援されている。尿意のある利用者をご本人の意思表示後に支援し、意思表示がない利用者には時間で誘導して支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便の状態を排便表と個人記録に記入し便性を把握し、起床時にも水分を摂取して頂けるように支援している。排便障害の予防のため好みの飲み物を飲んで頂いたり、食物繊維の多い食材、発酵食品を食事に取り入れて予防している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間の指定があれば、その都度、希望の時間に入浴をして頂いている。好みのお湯の温度を把握し気持ちよく入浴して頂けるように支援を行っている。	
			(外部評価) 現在、3日に1回程度、午後が入浴の時間となっている。お二人で入りたい利用者には、一緒に入浴できるよう支援されている。浴室が広めで浴槽は深いため、利用者の状態を踏まえ改修の要望を現在法人に提出しておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温や居室の明るさなど個々に対応し安心して休んで頂けるように心掛けている。就寝時間は決めず眠ったら、休んで頂けるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者様全員の、薬情報を、ひとつのファイルにまとめて、いつでも確認できるようになっている。職員は、薬の作用について、把握するよう努めている。薬は、服薬マニュアルに沿って、確実に内服されるよう、配置され、チェックされている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の『出来る事』を見つけ、活動して頂いている。(新聞折り、洗濯物たたみ、食器洗い等、) 職員は、できる事を共に喜び、感謝の気持ちを伝えている。ホームでは、季節ごとの行事や、外出を計画している。隣の託児所の子供達と一緒に行う季節の行事もあり、ふれあいを楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や、ドライブ、散歩などは、機会を見つけては、出掛けるように努めている。家族とよくドライブに出かけられ、楽しんで帰って来られる方もいる。気候の良い時期には、外気浴をしたり、近所を散歩している。家族の協力により、自宅へ帰ったり、墓参りをしたり、外食したりできる方もいる。	
			(外部評価) 事業所での外出は、トイレの問題や職員数でなかなか実施ができないようだが、初詣や花見、コスモスを見に出かける等、年に3~4回程度支援されている。日ごろは、個別にドライブに行ったり、近所に散歩に出かけられるよう支援されている。	利用者に行きたい場所の希望を聞くと、「ない」と返事する方が多く、誘っても「行きたくない」と言われる方もあるようだが、利用者のこれまでの暮らしぶり等を踏まえて、思い出の場所やなじみの場所等を巡ったり、地域資源等も活かして利用者の暮らしを地域に広げていけるよう、取り組まれてほしい。又、時には、ご家族も一緒に出かけて楽しむような機会を作ってみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分のお金を持つことの大切さはわかるが、共同生活でのトラブルが起きないように、すべて、立替金で、処理している。本人の希望に応じて、お金を使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や大切な人に、本人自ら電話が出来るように支援している。家族からの電話には、出て頂き、手紙などは、渡している。必要があれば、一緒に読んであげたりしている。今年は、季節ごとの便り等書くことが出来るよう支援したいと考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関に季節の花を植え、一緒に水やりをして育てている。みんなで、外でお茶をして、会話を楽しんだりしている。ホール内に、花を生けたり、窓や玄関ドアを開けて、外の風を入れたりしている。	
			(外部評価) 玄関にはプランターに花を植え、利用者が水やりや草引きをされている。玄関には花を活け、ソファを置いており、お気に入りの場所になっている利用者もいる。玄関と居間は段差がなく、下駄箱の横には、作りつけの1人用ベンチがある。壁には中学生の貼り絵の手紙や折り紙、動物の写真を貼り、温度計、湿度計もあった。テレビを囲むようにソファを置き、くつろげるスペースを作っておられる。高さの違う2つのテーブルは、車いすを使用する方や体格を考慮して席順を決めておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホール内にソファや椅子を置き、気の合った利用者同士で話をしたり、思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫をしている。自分の決まった席があり、混乱しない様になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベット以外は、用意してもらっている。使い慣れた家具や、好きな物を持ち込み、自分らしい部屋にすることができる。	
			(外部評価) 居室入口は暖簾をかけて開けてあり、風が通っていた。居室入口には、それぞれに名字を書いた木札をかけており、利用者ご自分の居室とわかるようにされている。昼の部屋が1部屋あり、利用者の希望で利用されている。衣装ケースやタンスを持ち込み衣服を整理している方や、ひ孫さんやお好きな動物の写真を飾っている方も見られた。お気に入りの縫いぐるみや大好きな芸能人の写真を飾っている居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 歩ける方、車椅子の方も、自分で移動ができるように、動線の確保をし、危険のないよう気をつけている。ホールの周囲に手すりをつけている。	